「講義：子どもと係わり合うことの意味」の受講生の感想

先日のある県の養護教育センターでの経験者研修の受講生から、3時間の講義について、早速次のような感想（抜粋）をいただいた。

何よりも、これからメル友としてお付き合いいただける新たな出会いの機会となったことが、嬉しい。

また、数年前から数回メール交流のある難病の親子が、わざわざ講義の後にセンターに来てくれ、初めて母子にお会いした。

その母親からも早速、次のようなメールをいただいた。

「短い時間しかお話し出来ませんでしたが、なぜかとても元気になりました。

阿部さんには人を元気にさせるパワーがあるんですね。お会いしてそう感じました。

お話しを聴いてるだけでがんばるぞ～という気持ちが湧いてきました。」

講義で「親子に生きる勇気を与えられるプロになれ！」と話しただけに、自らも実践できたことに、正直安堵した(^o^)

２００８．５．２６．　阿部幸泰

⑨先日、先生の講義を受けました。

私は言葉がどんどん出てくるタイプではないこともあり、保護者を傷つけたり失礼なことを言ったりしてしまいやしなかと、保護者とのかかわりが苦手と思うことがありました。

でも先生の講義を聴いて、熱い思いに胸を打たれました。逃げないで保護者と向き合おう、親にエネルギーをいっぱい与えられる人間になるべく努力しようと思いました。

ありがとうございました。

⑧先日、５年研修で先生のお話を聞き、知らず知らずのうちに思い上がっていた自分を恥ずかしく思い、また、すごく謙虚な気持ちで昨日から学級に入ることができました。

三日ぶりに学校に戻り、朝、教室に入ってくる生徒が待ち遠しくて、いつもは教室内で待っているのに、廊下に出て待っていました。

これまでの研修では、「テクニック」みたいな部分にばかり意識を向けて聞いていました。

方法論や実態のとらえ方や、教材を工夫したりとか、考えて来たつもりでいた自分でしたが、もっと生徒と「対人間」という視点で一緒にいるという意識を欠いていたと感じました。

ふだん学校の研修会などで「生徒のサインを読み取り・・・」とか、「生徒が自分の思いを伝える手段や機会を増やしたい」などとまるで前提条件のように考えていました。

その一方で「保護者の方のサインや気持ちを読み取る努力をしてきたのか」、「自分のわからないこと、困ったことを周囲の人に伝える努力を自分自身はしているのか」いかに実のない言葉を使っていたのか反省しました。

⑦今回、受講者からのアンケートを見ると、阿部先生のお話に刺激を受けた受講生が多く、勉強になったようです。

本当にありがとうございました。

⑥保護者もそうだけど、教師も、いや子どもを取り巻くすべての大人も、うまくいくときばかりではないけれど、元気で子どもに向き合えることが何より大切。

勇気づけらることって、ありそうでないのかもしれませんね。阿部さんがまさにそういう存在なのだと思います。

でも、近くにいる自分たちこそ、互いにそういう存在であるようになりたいなと思いました。

たとえば、保護者や同僚にとって、自分もそういう存在であるようになりたいですね。

⑤阿部先生の話は感激した。

生き様そのものを見せてもらった気がする。

④上司も人間ですもの、係わりあえばいいんですね。上司が人間に思えなくなっていました。

難しい知恵は使わずに、私にできるジャブをうっていきたいです。勇気を持って…。
明日、仕事に行く元気がでました。すごいです阿部先生は。
ありがとうございます(^O^)

③昨日は３時間の講義、お疲れ様でした！
今までこれほどじっくりと阿部さんの考えや想いを伺ったことがなかったので、とてもとても勉強になりました!!
「人間」という視点でつきつめて考えたら、世の中のありとあらゆることがつながっていて、だからこそ世の中について無関心でいてはいけないと感じました。
そして、教員として、母として、妻として、一人の人間として、自分の在り様を考えさせられました。

発信しないことには自分の欠点にも気付かない、苦労はあたりまえ、自らを検証する勇気、プロとして逃げないということ、覚悟をもつ…背が正される想いでした。

最後には、じわっと心が熱くなりました。
なんと言い表してよいものやら分かりませんが、きっとこれが本当に感動するということなんだろうなと改めて感じました…。
自分の中の方向性が見えてきました。

本当にありがとうございましたｍ(__)ｍ
そして阿部さん、とてもかっこよかったです!!
また是非、お話を聞かせてください!

②お話をとても興味深く伺わせていただきました。

阿部先生のお話ぶりから、手間を惜しまず人を信じて一生懸命働きかけていくことで、
腰の重い官僚をたくさん動かしてきた豪腕ぶりをビンビンと感じました。
「人間対人間という視点まで下りていけば、意外と怖いものや分かり合えないことなどない。」ということが、非常にシンプルにストンと私の心まで届いてきました。

公務員である私たちは、良くも悪くも「組織保全と協調」を強いられています。
お互いを伸ばし、理解し合えない協調など何にもならないのですが。
なぜか私を含め最近の教員は、自分たちの組織に対しても社会に対しても、とてもおっかなびっくりに接している感じがします。
阿部先生は何となくそれを感じて、もどかしいような思いをしていらっしゃるのではないでしょうか。

私たち若い教員もお互いの仲は良いものの皆で集まって何をするかというと、所属校の愚痴を言い合ったり、最近の保護者のわがままぶりをけなしあったりするのが関の山でした。
意見を交わしあう中で皆で共感し、力を合わせて何かを成し遂げていこうとする気概に欠けています。
残念ながら、若さの特権を生かせていません。
授業研究などはコツコツ行うのですが、上や外側に働きかけていくのは苦手なようです。

子どもを強く思う気持ちは、今日集まった全員の中にあります。やる気はあるのです。
まずはコミュニケーションを含めた人間力とでもいうのでしょうか、私たちはそこを強くしていく必要がある気がしました。

元気な学校と元気な先生が、子どもと保護者を幸せにしていくのは当たり前。
私たちはもっと元気になります。

ただの感想になってしまいました。
長々とすみませんでした。またメールさせていただきます。失礼します。

①恥ずかしながら、教員になって８年目にして初めて先生を知りました。
今日は先生の熱い思いが伝わり、私も自分の学級のこと息子のことを考えうるうるしてしまいました。
２年ぶりに職場に復帰し、子育てと仕事に追われ、独身の時の情熱が薄らいでいること

を感じながらも、頑張らなくてはと今回の研修に参加していました。

「自らを検証する勇気」をもって毎日を生きたい（係わりたい）と思います。

今日はありがとうございました。

追伸：

センターに隣接の学校にメル友がいるので、講義後、直ぐ側に来ていて声をかけないのもどうかと思い、厚かましく連絡した。

ほんの短い時間だったがお顔を拝見できた。

後日、そのメル友から次のようなメールをいただいた。

「　“生”の阿部さんにお会いするのは１年半ぶりくらいかと思います。

声を掛けていただきうれしかったし、そうして下さる阿部さんはとても素敵だと思います！！」